



発行：熊谷市立江南文化財センター

## TOPICS

### 認定！文化庁100年フード「妻沼のいなり寿司」

令和 5 年 3 月 3 日、地域に根づく食文化を評価する「文化庁 100 年フード」に、熊谷市妻沼地域の「妻沼のいなり寿司」が、江戸時代以前から伝わる「伝統」の 100 年フードとして認定されました。

妻沼のいなり寿司は、しょうゆと砂糖で煮込んだ油揚げに酢飯を詰め込み、他地域よりも長い俵型となっているのが特徴で、通常いなり 3 本と巻きずし 3~4 個を 1 人前として売られています。起源には諸説ありますが、江戸時代に江戸で流行した「いなり寿司」が、舟運により妻沼に伝わり、河岸で働く人々や妻沼聖天山の参拜者に喜ばれたのが始まりとされます。

戦後、全国のいなり寿司の大きさが小さくなる中、聖天山の本殿である国宝「歓喜院聖天堂」が建立された江戸時代中期に「茶屋 毛里川」として創業した「森川寿司」のほか、聖天山境内の「聖天寿し」、聖天山近くの「小林寿司」等が、江戸時代のままの長い形状を引き継ぎ、人気を集めています。

3 月 29 日には、認定を祝した報告会が聖天山で開催され約 50 人が参加するなど、多くのメディアで取り上げられました。本市では昨年の「五家宝」に続き、連続しての認定となりました。(山下)



### 江南文化財センター所蔵資料の出張

令和 4 年度は、4 つの博物館に資料を貸出しました。7 月に開催された埼玉の考古おひろめ展「地中からのメッセージ」(埼玉県立さきたま史跡の博物館)では、諏訪木遺跡の弥生土器を、8 月に開催

された「大勾玉展—宝萊山古墳、東京都史跡指定 70 周年—」(大田区立郷土博物館)では、飯塚南遺跡、前中西遺跡等の勾玉を、11 月に開催された「台の城山遺跡と向山遺跡~弥生の斧を手に入れたムラ~」(朝霞市博物館)では、前中西遺跡の磨製石斧、垂飾等を、1 月に開催された「拓くひとびと—狭山の奈良・平安—」(狭山市立博物館)では、円山遺跡の烙印、在家遺跡の須恵器小型短頸壺等をそれぞれ貸出しました。いずれの会場も盛況のうちに終了したようで、今後も資料の貸出をとおして、熊谷市の文化財を周知していきたいと思えます。(小島)



諏訪木遺跡出土弥生土器

### 源宗寺「木彫大仏坐像」保存修理事業

今年度、市指定有形文化財「木彫大仏坐像」(平戸の大仏)の第 2 期修理が実施されます。第 2 期修理では、欠損してしまった薬師如来坐像の薬壺や観世音菩薩坐像の蓮華のほか、第 1 期修理の際に装着の痕跡が発見された観世音菩薩坐像の宝冠、簪(かんざし)、胸飾り等を復元する予定です。

修理費用の半分を市が補助金交付し、残りの費用の一部はクラウドファンディングでの寄附募集等を実施するなど、多くの方々からの協力の下事業が進められています。保存修理は、吉備文化財修復所(さいたま市)が担当しています。修理完了後の 8 月上旬には、寄附者名簿を薬師如来坐像の頭部内に奉納し、10 月に入仏式を行う予定です。(山川愛)



木彫大仏坐像での復元修理作業

## 市内遺跡発掘情報

### 令和4年度上之土地区画整理地内遺跡発掘調査

上之土地区画整理事業では、埋蔵文化財包蔵地に該当する街路部分等について、事前に発掘調査を行っています。今回は、令和4年11月から令和5年3月まで実施した前中西遺跡の調査について紹介します。

調査地点は、遺跡範囲ほぼ中央に位置し、事前に行った試掘調査の結果から遺構・遺物が少ないことが想定されていました。しかし、実際に発掘調査を行ったところ、弥生時代中期後半～後期前半の竪穴住居跡が18軒も見つかかり、土器や石器等が大量に出土しました。また、この他にも幅約6.6m、深さ約2mを測る大溝が見つかり、この大溝は水路と思われ、弥生人の生活に重要な役割を担っていたと考えられます。

今回の調査も、本遺跡の弥生時代を考える上で大変貴重な成果を得ることができました。(松田)



竪穴住居跡群



大溝

### 令和4年度市内遺跡試掘調査

本市には、現時点で342か所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡、古墳群)が所在し、それらの範囲内で土木工事等の開発行為を行う場合は、事前に埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施します。その試掘調査は、例年、年間45件前後実施しており、調査の結果遺跡の存在が確認されると、現状保存をするよう指導等行いますが、それができない場合は発掘調査を実施して記録保存します。今回は、令和4年度の試掘調査のうち、印象深い1件を報告します。

10月、肥塚地内において、およそ4,500㎡の開発予定地内について試掘調査を実施しました。この周辺は、古くから古墳が複数基ある肥塚古墳群(写真)が所在する場所で、開発予定地内には未だ確認されていない古墳もあるとも考えられており、その確証を得るために10か所にトレンチを入れ、確認しました。その結果、合計2基の円墳が確認されました。埴輪は検出されませんでした。うち1基の周溝からは土師器模倣坏(はじきもほうつき)が検出されたことから、これらの古墳が古墳時代後期の築造であると推定できました。

教育委員会では、上記のとおり埋蔵文化財が確認されたことから、開発事業者と協議の上、古墳が確認された範囲を除外した上で、開発行為が行うことができる内容の指導を行いました。

埋蔵文化財は、貴重な国民共有の財産であり、一度開発行為による掘削等で破壊を受けると永久に消滅してしまいます。そのため、それを防ぐための事前の試掘調査は、重要な業務の一つであるといえます。(腰塚)



## 連載 くまがやの古墳群

### ⑳ 大境南古墳群 -前方後円墳2基を中心に小円墳で構成される古墳時代後期の群集墳-

大境南古墳群は、大里地区の青山、荒川右岸の江南台地東南端、荒川の低地に面した標高45m前後を測る台地に所在していた古墳時代後期(終末期を含む)に造られた古墳群です。本古墳群の発掘調査では、前方後円墳2基及び円墳12基が確認されましたが、調査後削平され消滅しています。

2基の前方後円墳のうち第1号墳は、全長34mで、凝灰質砂岩切石積みの胴張型横穴式石室が検出されています。石室からは、副葬品として耳環(じかん)、刀装具の足金物・鞘口(さやぐち)金具や鞘尻(さやじり)金具・鷗(しとどめ)金具、大刀の鏢(つば)、鉄鏃(てつぞく)、刀子(とうす)が、石室前面の墓道からは須恵器提瓶(ていへい)・平瓶(ひらべ)等が出土しています。特筆すべきは、周溝から出土の8点もの須恵器提瓶で、埴輪の代用として墳丘に供献されたものが転落した可能性が考えられます。築造時期は、埴輪の樹立がなく、出土須恵器から6世紀末～7世紀初頭頃と考えられます。

一方、円墳は、直径約10m～20mの規模で、うち3基では埴輪の樹立が確認されています。特に6世紀中頃築造の直径19mの第6号墳は、円筒埴輪のほか人物埴輪が出土し、人物埴輪には武人や男子が見られます。挂甲(けいこう)武人の1体は、東日本最大級と言われる生出塚(おいねづか)埴輪窯(鴻巣市)から供給されていて、この窯からは特別史跡埼玉古墳群の二子山古墳、遠くは千葉県市原市や神奈川県横浜市古墳と広範囲に供給されています。

本古墳群は、6世紀中頃の円墳の築造に始まり、7世紀前半まで築造が続いたと推定されます。



(写真：冑を被り挂甲と草摺(くさずり)を身にまとった武人埴輪 大境南古墳群第6号墳出土)



## 文化財センター通信

### ◇国宝「歓喜院聖天堂」花頭窓修繕工事

令和5年5月9日から約2週間の工期で、妻沼聖天山の本殿である国宝「歓喜院聖天堂」拜殿南側の花頭窓の修繕工事が行われました。花頭窓とは、鎌倉時代に中国から禅宗様（よう）建築が伝えられた際にもたらされた、上部が尖頭アーチ状になっている窓のことです。

この度の修繕では、花頭窓の框（かまち）上部に割れが生じていたことから、その亀裂部分を「刻苧（こくそ）」と呼ばれる漆のパテで埋め、表面を漆の塗り研ぎを重ねて仕上げる工事が行われました。本工事は、ほんの一部ではありますが、文化財修理の様子を垣間見ることができる貴重な機会でした。（山川愛）



### ◇新調！江南文化財センター懸垂幕

令和5年3月、江南文化財センターの懸垂幕を新調しました。幕にデザインした「踊る埴輪（踊る人々）」（東京国立博物館所蔵）は、昭和5年（1930）、畑の開墾中に小原村大字野原（現熊谷市野原）で発見されました。埴輪の作り方から6世紀後半のものと考えられます。なお、左手を耳の後ろまでかぶらせ、右手を下に向けたかたちは、まるでリズムをとって踊っているように見えることから、この名がつけられました。旧江南町では、「緑と踊る埴輪の里」をスローガンとし、町を代表するイメージキャラクターとして大いにこの埴輪を活用していましたが、今後も全国に誇る熊谷市出土の埴輪として活用していきます。（小島）



### ◇中山道を紹介するマップ

『ウォークマップ ホントに歩く中山道 第15集 本庄～北鴻巣+忍（行田）道』が株式会社風人社から新しく刊行されました。第15集は、京都から東京へ向かう中山道のうち、埼玉県北部の経路をテーマとしています。詳しくは、No.57 本庄～深谷（9.2km） No.58 深谷～籠原（8.5km）、No.59 籠原～熊谷（8.5km） No.60 熊谷～北鴻巣（8.0km）+忍（行田）道です。

マップは、B6版変形の蛇腹折マップ4枚によって構成されています。マップ1枚の長さは1mほどですが、折り畳みながら持ち運べるため便利です。市内の中山道の経路のほか、周辺の史跡や名所等が紹介され、散策のためのガイドブックとして活用できます。熊谷市観光協会や江南文化財センター等が制作協力しました。Amazon、県内書店等で販売されています。詳細は、同社ホームページを参照ください。（山下）



### 【文化財探訪 小江川獅子祭り】

令和5年3月11日、市無形民俗文化財に指定されている小江川獅子祭りが3年ぶりに開催されました。小江川獅子祭りは、毎年3月の第2土曜日に、小江川にある高根神社の春祭りの際に行われる行事で、上尾市の八枝神社から借りる「お獅子様」が、地内を巡ります。

当日は、午前10時から高根神社にて祈年祭が執り行われ、その後、直会（なおらえ）を兼ねた早めの昼食をとると、いよいよお獅子様を乗せた神輿の巡行が始まります。午前11時、高根神社を出発したお獅子様は、万灯、賽銭箱、幟（のぼり）を持った人等と共に行列をつくって、「わっしょい」という掛け声とともに小江川中を回ります。小江川地区の住民たちは、お獅子様が通ると沿道に出て、お獅子様の頭をなでるほか、賽銭箱に賽銭を入れ、お祓いをしてもらいます。昔は、お獅子様が来ると各家から一人ずつ行列の後についてそろそろと歩いていき、次第に行列が長くなっていくので終わりのほうの家では大変な騒ぎになったそうです。神輿の巡行は午後3時まで行われ、高根神社に到着したお獅子様は、上尾市の八枝神社へ戻されます。お祭りの様子は、江南文化財センターYouTubeでも公開していますので、ぜひご覧ください。（山川愛）





## 文化財コラム 大我井神社の福石

妻沼の大我井（おおがい）神社境内に、玉垣に囲まれた大きな石【福石】が祀（まつ）られています。

この石の脇に建てられた「福石由来坐碑」によると、「天明2年（1782）に関東で大洪水がおこり、森下の地に洪水で巨石が流れてきた。人々はこの奇跡に感じ、福石神社と称して崇めた。明治42年（1909）に大我井神社に移し合祀した」とのことです。

この福石は安山岩で、幅1.4m、奥行1.2m、高0.85mを測り、重さ約3.5tです。これだけの重さの石が流れてくる洪水は、利根川流域に大災害をもたらしたと思われるのですが、天明2年にそのような記録は残っていません。妻沼聖天山の歓喜院聖天堂の再建の中断をもたらした寛保2年（1742）の大洪水か、天明3年（1783）浅間山の噴火に伴う利根川河床の上昇を遠因とする天明6年（1786）の洪水の際に流れてきたものと推測されます。

福石の周囲に積まれている小形の石は黒色安山岩で、天明3年の浅間山の噴火に伴い、利根川を妻沼付近まで流れてきたものです。福石は同じ安山岩ですが、黒色を呈していなく、天明以前の噴火物と推測され、ポットホール※状の窪みが観察されることから、ある期間川の中に水没していたものが、洪水により流れ着いたものと推測されます。※水流で回転する石や岩によって削られてできた穴

このように、噴火に伴う巨石を祀る事例は多く、前橋市昭和町岩神稲荷神社境内には、10mの巨石（安山岩）が祀られています。この石は、2万4千年前に浅間山が噴火した際に、泥流と共に50km余りを流れてきたものです。

これらは、何もなかった所に突然巨石が現れることに、人々が神性を感じ祀ったものですが、自然災害伝承物としての観点からも、後世に伝えていかなければならないものです。（森田）



## マニアックな文化財メモリスキリングとしての学芸員実習

就業しながらスキルや知識を再習得する意味で、資格取得や技術向上を目指す「リスキリング」と呼ばれる言葉があり、昨今注目を集めています。本年5月には、0歳児のお子さんがある市内在住の女性が「学芸員」の資格を得るために江南文化財センターや星溪園、長島記念館（写真：美術展示室）等で実習を行いました。育休中に学ぶことは大変かも知れませんが、そのような「リスキリング」を応援できる学びの機会を提供できたことは有意義であったと考えています。（山下）

## 編集後記

令和5年5月から本格的に京都に移転し業務を開始した文化庁は、100年フード等食文化を積極的に発信し、食文化を親しむ・学ぶという意味を含む「ガストロノミー」という言葉を積極的に使用しています。この度、「妻沼のいなり寿司」が文化庁100年フードに認定されたことは、その昔ながらの大きさと風味を愛する我々にとっても朗報となりました。埼玉県内唯一の国宝建造物「歓喜院聖天堂」を見学し、「妻沼のいなり寿司」を味わうという楽しみも一層増したように感じられます。地域のガストロノミーによって、郷土の魅力が広く認識されるよう願っています。（山下）



発行：令和5年6月7日（2023/6/8）

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話：048-536-5062 FAX：048-536-4575 メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<https://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

ブログ「熊谷市文化財日記2」、熊谷市観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中